

【ねがいましては】

平成26年4月25日

KYOWA SCHOOL

第282号

「動」

少しばかりやさしいかな？ さんすうの問題です。

ある人は、全くといって良いほど失敗がありません。いや、失敗など一度もしたことがない。失敗の数は「0」ゼロ。

ある人は、失敗が他の人からするとかなり多い。失敗の数は一日に5回。

さて、前者、後者、どちらの人物になりたいか。

子どもたちのほとんどは、前者とこたえるかもしれません。

最近とても興味深いことがありました。アルバイトをしてくれているMさん。3月に入り、私の仕事量が以前より増して膨大なものになってきました。やっと高校入試も終わり、これで少し自分の時間ができるかなと思いきや、今度は加盟する団体からの仕事がドカン！ 予定では無かったはずなのですが、突然依頼の声がかかりました。うれしいこととして受け止めなければと思うのですが、目をつむると、1・2・3・4・・・。やることが整列します。

その中に検定試験の合格証書作成があります。加盟している団体では、年間6回の検定があり、毎回奇数月に行われます。その関係で、偶数月の初旬は証書作成でかなり時間がとられます。そんなこんなで困っている私を見てか、「私やります。」と、快い申し出あり・・・。休日返上でやってくれます。私が団体の仕事で出張になっている間も、一人でこつこつとやってくれます。

今までは失敗しても予備が調達できる級を専門に行ってくれていたのですが、このたびの私の忙しさに、失敗があまり許されない級へも、果敢に挑戦してくれました。量からすると今までの2倍以上、いや3倍になるのかな。

で、しでかしました。失敗です。それもかなり多くの量なのです。Mさん、相当のショック。半泣き状態の表情に大変身。先ほど申し上げた失敗があまり許されない級での不始末なのです。替えの証書がすぐには手に入らない級なのです。

原因はいろいろあります。早く終わらせたいという気の焦り、長時間行うことでの気疲れからくる集中力の低下、普段慣れない分野に携わったことからの経験不足、などなど。原因がわかっても、これは次回からの改善に役立てることにはなりますが、このたびの失敗については、即、解決策を講じることが先決です。

これは当然私の仕事になります。

ここで私からのMさんへの激励の一言。「今のうちにたくさん失敗をしておくことだね。その失敗が自分を育ててくれるから。」

まだ大学生のMさん。今年成人式を迎えたばかりです。真面目と明るさが基本。それを標本にしたような子です。もちろんKYOWA育ち・・・。そして積極的に買って出てくれた仕事。この前向きがこれからの彼女を大きくしてくれるはずです。肝心なのは次の証書作成の時に、引くか責めるか・・・。「もう一度やらせてください。」ときたら大正解です。毎日汗流しながら家族を養うための糧を稼ぎ出しているお父さん、お母さんならわかるはずです。会社で失敗したら、同じ仕事を再びしようと思しますか、それとも・・・。

私は、子が親の保護のもとにあるときは、おおいに失敗させるべきだと思っています。失敗してもバックに強い味方がいる以上、その失敗は大きなことへとつながりません。子どもたちにとって、その中心をなすものが学校生活です。学校生活では大きく二つのジャンルでの生活になります。一つ目が友人関係、つまり人間関係です。学級活動や部活動などはこれにあたります。もう一つが勉強です。

子どもたちは日々真剣に生きています。とくに年齢が低くなればなるほど真剣味は大きくなります。

ピッカピカの一年生時点で、学校への期待は最大に達します。どんな楽しいことが待っているのだろう。どんな出会いが待っているのだろう。期待と不安の比は圧倒的に期待の勝ちです。

ところが時間の経過とともに、逆転が生じ始めます。「どうしよう」「やりたくない」「会いたくないな・・・」。

いつの間にか積極性は消えうせ、消極性ばかりになっていきます。

失敗を恐れる心です。子どもたちの心理は単純です。「失敗さえしなければいいんでしょ・・・。」

そして行動は最終段階に入ります。「何もしなければいいんだ、そうすれば失敗などない。」

その子に結論が出ました。動きを止めた瞬間です。

さて、先ほどのやさしいさんすうの問題です。

ある人は、全くといって良いほど失敗がありません。いや、失敗など一度もしたことがない。失敗の数は「0」ゼロ。

ある人は、失敗が他の人からするとかなり多い。失敗の数は一日に5回。

さて、前者、後者、どちらの人物になりたいか。

子どもたちよ、願いがあります。動くことです。動いて動いて動きまくって、たっくさん失敗して、たっくさんいろいろなものを吸収して成長するんだよ。たっくさん動くから、その分だけたっくさん失敗もふえることはあたりまえのこと。

つまり、失敗の多い人は、それだけたっくさんのことを吸収している人だってこと。Mさん、ありがとね。